

## FLOATING ${ }_{\text {dAkkowski }}^{\text {Chrlitiln }}$ <br>  <br> 

FLOATING WORLD CHRISTIAN JANKOWSKI フローティング・ワールド クリスチャン・ヤンコフスキー

（10月5日｜金｜はニュイ・ブランシュKYOTO 2018のため22：00まで開館）
休館日：9月18日｜火1，25日｜火｜，10月1日｜月1，15日｜月1，22日｜月｜
京都市立芸術大学ギャラリー＠KCUAでは毎年，国際的に活躍する海外作家の創造と実践に触れる機会として，展覧会や実践的なワー クショップ，レクチャーなどを実施しています。2018年度は，挑発的で アイロニカル，かつユーモア溢れる作風で知られるベルリン在住の作家，クリスチャン・ヤンコフスキーを招聘し，日本初の個展を開催します。 ブリーフケースと機内持ち込みサイズのスーツケースのニつを持って世界中を駆け巡るヤンコフスキーは，仕事の依頼を受けた各地でさま ざまな業種の人々との協働作業を通じて，アートの世界とそれとは異 なる世界とを接続し，その関係性やそれぞれのあり方を問いかける活動を行っています。
2018年6月の京都でのリサーチにて制作した龍崎飛鳥（京都社園Bi－ zarre Lounge 「BAR－BARA－the Bizarre－」）の緊縛とのコラボレーションに よるテストピースや，本学出身の若手作家や学生などを交えたレク チャーパフォーマンスを題材とした複数の新作が発表される本展のタ イトルは「Floating World」。緊縛に関心を示したリサーチ当初から ヤンコフスキーは地面から浮遊した状態で固定されることにこだわっ ていました。このタイトルは，歌舞伎や浮世絵に表されるようになった ことで緊縛に芸術性が追求されていった歴史的背景もさることなが ら，例えばヨコハマトリエンナーレ2017でも展示され，日本の美術ファ ンの記憶にも新しい「重量級の歴史」（2013）など，重力に逆らって物 の見方を変えるような表現のみならず，アートの世界とそうでない世界との関係性を探り続けながら，人々の意識から離れた場所にある新 たな世界を提示しようとするヤンコフスキーの作家活動そのものをも示すような言葉だとも言えます。彼のアイデアがいかに発展してオー プニングを迎えるのか，ご期待ください。

## クリスチャン・ヤンコフスキー

1968年ゲッティングン（ドイツ）生まれ。ベルリン在住。ハンブルク美術大学卒業。映像，写真，パフォーマンスを中心に，芸術に限らずさまざまな分野のスペシャ リストと協働し，コンセプチュアルでウイットに富んだ作品を制作することで知ら れる。毎年ヨーロッパを中心に世界中での複数回の個展のほか，国際展をはじ めとしたグループ展にも勢力的に参加。また，マニフェスタ11（2016）では芸術監督を勤めるなど，キュレーションの分野についてもその手腕を発揮している。 ヨコハマトリエンナーレ2017では身体と公共彫刻の関係性について言及する三部作《重量級の歴史》（2013），《アーティスティック・ジムナスティック》（2014），《マッサージ・マスターズ》（2017）を出品。シュトウットガルト芸術アカデミー教授。

## 関連イベント（参加無料•事前申込不要）

「ギャラリー・トーク\＆オープニング・レセプション」
日時：9月15日 $\mid$ 土｜14：00－19：00
14：00－《ギャラリー・トーク》
16：00－《オープニング・レセプション》
ゲスト：龍崎飛鳥（京都祇園 Bizarre Lounge 「BAR－BARA－the Bizarre－」）
「クリスチャン－ヤンコフスキー映像作品上映会」
本展に合わせてセレクトした映像作品をオープニングの週末限定で上映します。日時：9月15日｜土｜－16日｜日｜

```
企画 | 京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA
主催|京都市立芸術大学
助成 | &salii アサヒブルーブ芸術文化財団, 芸術文化振興基金(芸術文化振興基金助成事業) 余血
協カ|ゲーテ•インスティトゥート•ヴィラ鴨川, 三村康仁, 龍崎飛鳥(京都祇園Bizarre Lounge 「BAR-
    BARA -the Bizarre-」)
```


〒604-0052 京都市中京区押油小路町 238-1
Tel: 075-253-1509 / E-mail: gallery@kcua.ac.jp
http://gallery.kcua.ac.jp

〒604－0052 京都市中京区押油小路町 238－1 http：／／gallery．kcua．ac．jp


